

## 〔第26回学会大会パネルディスカッション：問題提起及び発題〕

### テーマ『高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究と教育への期待』

#### 〔問題提起〕

石井 允（立教大学教授）

はじめに

昨年9月に厚生省が公表した資料によれば、1963年に僅か153人であった百歳を越える高齢者の数は、30余年後には、約40倍を越す6378人となった。また、65歳以上の人口比率は1970年に「高齢化の始まり」とされる7%となり、1994年に「高齢社会」と呼ばれる14%の比率となった。この現象は21世紀に入ると高齢大国といわれる欧州各国を抜き去り、2025年には「4人に1人が高齢者」となることが予測されている。このように日本の人口構成は高齢社会を示し、いわゆる高齢化社会から高齢社会へ急激に進んできている速さも水準も他の国に類を見ない。このように急激な量的変化のもとで、多方面にわたる対応の遅れから様々な質的な歪みを生じてきている。当然、高齢社会に対するレジャー・レクリエーションに関する諸問題も顕在化しており、こうした問題意識のもとに今回の日本レジャー・レクリエーション学会では、パネルディスカッションのテーマとして「高齢社会におけるレジャー・レクリエーション研究・教育への期待」を選択したといえる。

高齢社会でのレジャー・レクリエーションに寄せる期待としては、レジャー・レクリエーションを、(1)社会への身体的、精神的復帰の治療的手段として、(2)生活を楽しむための手段として位置づけることも可能であるが、ますます高年齢化する社会に対して、レジャー・レクリエーション研究と教育の実践はどうあるべきか、その方向性を探り、また会員の皆さんが具体的な研究・教育を進めていくうえでの議論の活性化を求める視点からも、いくつかの中心的な問題提起をし、周辺に存在している課題の提供もしたい。

#### 《問題提起 (1)》

－レジャー・レクリエーション活動と健康問題－

★健康は万人の願いであるが、特に高齢社会において健康（精神的、身体的、そして社会的諸相）の問題は大きな課題となろう。レジャー・レクリエーションがこの問題に対してどのように効果的な役割を果たすことができるだろうか

#### 《問題提起 (2)》

－介護の問題と経済的問題－

★介護とそれに伴う経済的な負担は切実な問題である。この問題の中にはどのような内容が含まれ、レジャー・レクリエーションとの関係からは、どのような支援ができるのかを明確にしていく必要がある

#### 《問題提起 (3)》

－急速に高齢社会に進んだ結果としての“ひずみ”に関わる問題－

★「仕事人間から余暇人間への迷い」や「住宅問題」そして「ライフスタイル」等からくる核家族社会とコミュニケーションの問題

★家族や社会とのコミュニケーション（喜びや楽しみの獲得）をはかるための方法や手段として、レジャー・レクリエーションはどう関わりを持つことができるのか

#### 《問題提起 (4)》

ーレジャー・レクリエーション理論の確立とその正しい普及ー

- ★レジャー・レクリエーションは単に活動や現象として捉えるのではなく、深く人間生活、いわゆる“生きがい”といった本質的な領域との関わりにおいての研究・教育が必要ではないだろうか
- ★レジャー・レクリエーション活動と生きがいとの関係を明らかにすると共に、レジャー・レクリエーション活動を通しての生きがい化の可能性を探究すべきであろう

#### 《問題提起 (5)》

ー急激な長命・高齢社会への対策として、レジャー・レクリエーション研究・教育をどう対応させていくべきかという問題ー

- ★年代層の変化による社会構造に対してレジャー・レクリエーションそのものの捉え方、扱われ方をどうするか
- ★レジャー・レクリエーション教育をどう扱っていくか（高等教育機関、学会、協会）
- ★学会が高等教育機関と密接なネットワークを構築し、情報や人材の確保等の積極的な役割を果たす必要があるのではないか
- ★高等教育機関での教育システム（カリキュラム）の導入と指導者養成の制度化への働きかけを、どう組織的に進めていくべきか、そして学会はどのような役割を果たすべきなのか

#### まとめ

機能性を重視した現代社会は生活水準を大きく高めたものの、高齢者や障害者に十分配慮した社会を目指していくには、行政や社会保障の諸問題など国レベルで解決しなければならない問題も数多く挙げられる。課題の具体的な解決方法として、地域、職域、学校、家庭などで積極的に人間性回復の立場から考えると、生きがい、家族との関わり、地域での役割、レクリエーション指導者あるいは介護者との関わりといった中でコミュニケーション（人間交流）の問題をとりあげ、個人一人一人が能動的に解決すべき方向性を見いだす努力も大切である。

超高齢化に直面する日本社会において、現状を正しく把握し、将来を展望することの重要性を今ほど問われている時代はないであろう。ここで取り上げた問題提起を含めさらに議論を深めるために、新しい分野からの問題としての「セラピューティックレクリエーション」、そして日本における在宅医療との関係からも重要な問題を含んでいる「介護福祉とレジャー・レクリエーション」、また高等教育機関における教育と研究に加えて問題解決の能力を有した専門家の育成については「わが国におけるレジャー・レクリエーション専門家育成の課題」と題して、それぞれのパネリストからの発題と共に、具体的な問題の提起も期待したい。

レジャー・レクリエーションの本質に関わるところに大きな問題が潜んでいるのだが、本質論を曖昧にしたままで、運動論や活動論、あるいは指導者養成論を現象だけで捉えて問題解決しようとするだけでは、現状の打開は可能であっても豊かな将来を展望することは難しくなってしまう。会員諸氏からの活発な問題意識の提供と、本学会大会での単年度的な研究・教育の課題解決を求めることにとどまることなく、会員による当該課題解決へ向けての継続的な研究が期待されるところである。